令和6年度　組織重点目標一覧

課名	組織目標	係名	具体的目標	達成水準	達成状況	達成状況評価
教育総務課	心ゆたかな人間性と健やかな心身を育む教育環境づくりを推進する。	総務学事係	児童生徒が笑顔あふれる教育環境づくりへの支援。	１ホームページ、広報紙等の情報発信ツールを利用し、周知に努める。 ２教職員等の業務支援を図り、多忙化解消に繋げる。	１教育行政に関する記事及び各種支援事業等について、ホームページや広報紙を利活用しながら、町民に対しわかりやすい内容を掲載するよう心がけ、事業等の周知に努めた。 ２教員業務支援員（スクールサポートスタッフ）の派遣により、教員の業務負担の軽減を図り、教員がより一層児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備できた。 （派遣実績：町内小中学校９校に対し、各校１名ずつ配置。年間９校合計１，５６９日派遣を行った。）	B
		学校施設係	ライフサイクルコストの縮減を意識した、持続可能な学校施設の維持保全を図る。	令和７年度に利府町学校施設等長寿命化計画を改定できるよう予算措置を進めつつ、 早期改修等が必要な施設を的確に把握し、学校施設の維持保全に努める。	老朽化した利府中学校弓道場を新設したほか、利府第二小学校建替調査業務を行い立替候補地となる場所の選定を行った。緊急を要する修繕等を行いながら学校施設の改善・安全確保に取り組んだ。 修繕等の件数　小学校　修繕　５４件（内少額３４件） 工事　１０件 中学校　修繕　３２件（内少額２３件） 工事　１０件	B
		教育指導係	豊かな心を持つ人間育成のため、支援を要する児童生徒に寄り添い、個に応じた相談、支援体制の充実を図る。	１支援を必要とする児童生徒等への早期支援や新規支援に繋げるとともに的確な支援を継続できるよう、ＳＣ、ＳＳＷとケアハウス、教育相談専門員、不登校相談専門員における児童生徒や保護者への支援状況について定期的に共有する。 ２地域のキャンプ場を活用し、小学４年生から６年生を対象としたデイキャンプを実施する。	１各専門職種と学校間における体制強化 ・R6に不登校相談専門員を新設し、SC等との定期的な情報共有、教育相談専門員との合同学校訪問で効率的に学校との情報共有や支援、保護者の相談窓口としての対応を強化（小10件・中6件） ・SCのケアハウス兼任により、学校外における相談体制を整えた。 （1学期4回2件・2学期5回3件） ・ケアハウスの茶話会・不登校相談会を実施し保護者支援に努めるとともに（年3回）、茶話会がきっかけとなり保護者の集まり（任意団体）が作られた。 ・小学校新入学説明会時に保護者に「不登校理解講話」を実施し早期対応に努めた。（相談事案1件） ２イングリッシュキャンプ事業の実施 ・8/6・7に0泊2日のデイキャンプを実施（小4～6年生27名）・事後アンケート「とても楽しかった・楽しかった」児童の合計21件 ・保護者への連絡ツールとしてLogoフォームを活用した簡易的なプラットフォームを作成し運用し、事後アンケート「便利だった、更新内容がいつでも見れてよかった」保護者の合計24件	A
		学校給食センター	学校給食での地場産物等の活用や地域ボランティア等との交流を通した食育の推進。	１町内産、県内産の地場産品の活用や地域の特産品等の活用を積極的に行う。 ２コロナ禍により、活動を休止していた食育ボランティア「キャベツクラブ」との連携による食育指導の再開に向けた取組みの実施。	１学校給食センター年間指導計画を作成し、毎月の指導目標のもと食育の推進を図った。食育の献立、箸を上手に使う日、みやぎ水産の日献立を年間を通して毎月実施し、さらに、町の公式SNS『X（元Twitter』や『Youtube』を活用し、給食献立の紹介を開始した。 ２地場産物の使用においては、町内産に限らず県内産や地域の特産物などを活用することにより、使用頻度を増加に努めた。また、令和５年度から実施している町内産「あかもく」の給食での活用を今年度も実施し、町内地場産物の使用品目を増やす取り組みを行った。 ３『キャベツクラブ』との連携による食育指導の再開には至らなったが、今後も再開に向けて調整予定	B